耕うん機

F860

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証しです。
具体的には、世界トップレベルの環境技術を投入した汎用製品に表示しています。

本製品は、(社) 日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の指示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはHonda汎用営業所にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
  - ・裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
  - ・点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
  - ・本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。
  - ・作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
  - ・作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。

警告

- 作業内容に適した作業機はお買いあげいただいた販売店に、ご相談ください。
- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故の原因となることがあります。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - 急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故がおきやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、路面の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - 傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - 傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してサイド クラッチを使用しないで、ハンドル操作で行ってください。
  - 傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - 傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

●ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。

・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。

・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。

●作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。

●休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定してください。

●爪(タイン)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると大ケガをするおそれがあります。

・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。

・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。

●回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。

・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取り除いてください。

・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせるのはやめてください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引きおこすおそれがあります。

警告

●トレーラーを走行するとき

- 本機のトレーラの乗員定員は１名です。運転者以外の人を絶対に乗せないでください。思わぬ事故を引き起こしけがをするおそれがあります。
- 走行中は立ち上がらないでください。バランスをくずし事故を引き起こすおそれがあります。
- 走行中はサイド クラッチ レバーを操作しないでください。走行中に操作すると思わぬ方向に急旋回し走行が不安定となり、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 走行中はエンジン キル スイッチを押さないでください。急激なエンジン ブレーキがかかり、思わぬ事故を引き起こし、けがをするおそれがあります。
- トレーラの表示限界積載量を必ず守ってください。
- 坂道での走行は次の指示に従ってください。守らないと事故、けが、本機の故障をまねくおそれがあります。
  - ・上り坂、下り坂では、坂の手前で一旦停止して低速のギヤに変速し、安全な速度で走行してください。
  - ・上り坂、下り坂で、主クラッチを切ったり変速操作(主変速、副変速)を絶対にしないでください。
  - ・下り坂ではエンジン ブレーキと主ブレーキを併用して、安全な速度で走行してください。主変速が中立の位置では絶対に走行しないでください。
  - ・方向転換は十分に速度を落としてサイド クラッチを操作しないでハンドル操作で行ってください。
- 走行前には必ず作業前の点検(27頁参照)およびトレーラ走行前の点検(33頁参照)を行ってください。点検は平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- 安全のためにヘルメットを着用してください。
- 公道を走行するときは関係法規を守り安全運転に心がけてください。

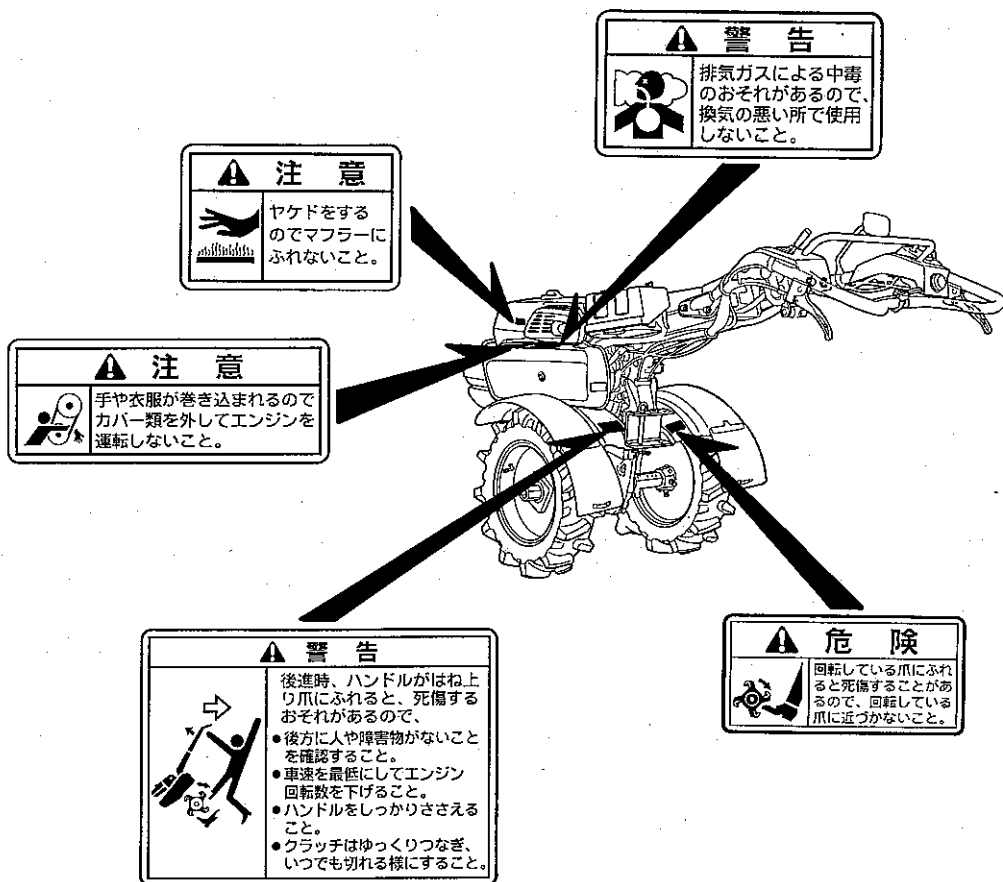
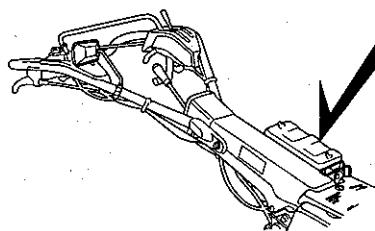
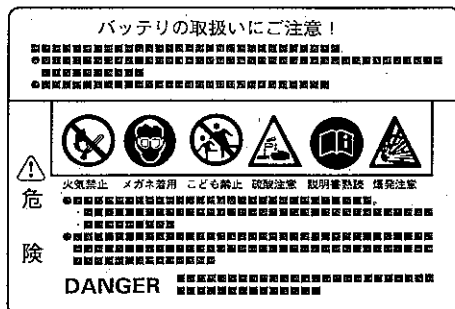
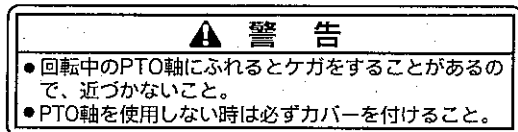
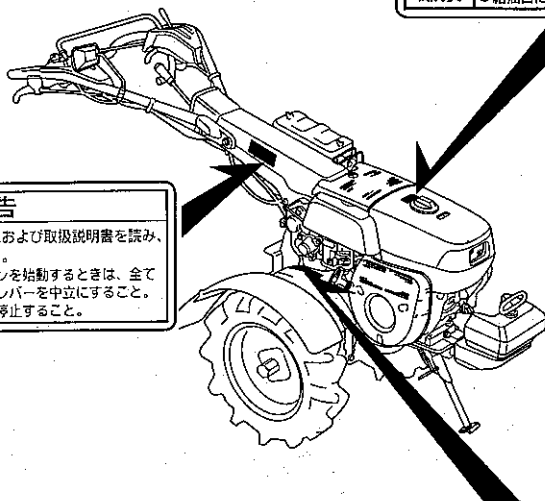
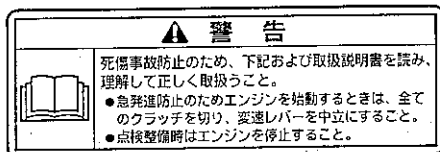
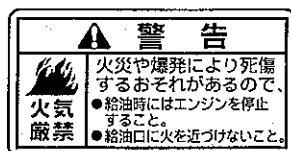
警告

●積み降ろしおよび運搬時

●本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。

・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かない様にしてください。
・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの4倍以上の長さ)
・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
・車軸に耕うん作業機を装着しているときは、タイヤに付け替えてください。
・ロータリ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
・積み込みは前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
・アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを切ったり、サイド クラッチを操作したりしないでください。
・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れ、駐車ブレーキを〝駐車〟の位置にしてください。
・燃料コックは〝閉〟にして運搬してください。

●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに張り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

※バッテリー ボックス裏側に
貼付られています。

サービスと保証について

・お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。また、ご相談窓口として「Honda汎用営業所・S店住所一覧」を別紙で同梱しておりますのでご利用ください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

<銘板>

農用トラクター(歩行型)
ホンダF860
(区分；KN)

※フレーム号機および銘板の表示位置は15頁をご覧ください。

・本機の改造や仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください(詳細は保証書をご覧ください。)

認定番号

安全鑑定適合番号、型式認定番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号	型式認定番号
ホンダFZAR	1402005	農1780

小型特殊自動車について

本機は国土交通省の型式認定を受けておりますので、所定の手続きにより小型特殊自動車として、ナンバ プレートの交付が受けられます。

●一般公道をトレーラ走行される場合は、市町村役場に届出を行いナンバ プレートの交付を受けてください。(手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、お買いあげ販売店にご相談ください。)

●小型特殊自動車とは、道路運送車両法において下記のように規定されています。

車体の大きさ	全長	4.7 m以下
	全幅	1.7 m
	全高	2.8 m以下
最高速度		35 km/h以下

上記のうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特に注意してください。

1．認定を受けたエンジン以外は搭載して公道を走行することは出来ません。
2．エンジンで封印されているところは、大変重要な部分ですのでさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は、保証は出来ません。
3．標準設定以外のタイヤやエンジン プーリに交換する等で、認定時の構造を変更した状態では公道を走行することは出来ません。
4．本機にトレーラを取付けた状態で、上記寸法を超えるようなトレーラは取付け出来ません。

●運転時に携帯しなければならないもの

○小型特殊自動車の運転可能な自動車運転免許証

○小型特殊自動車届出証

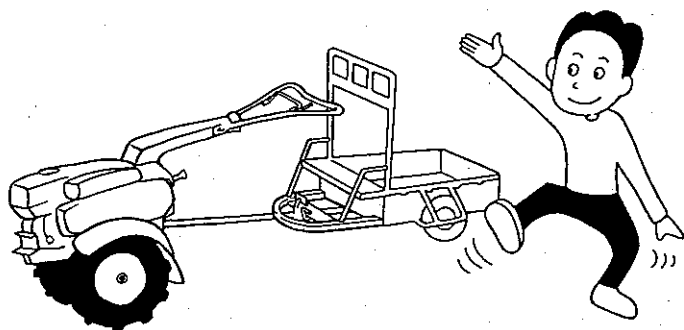
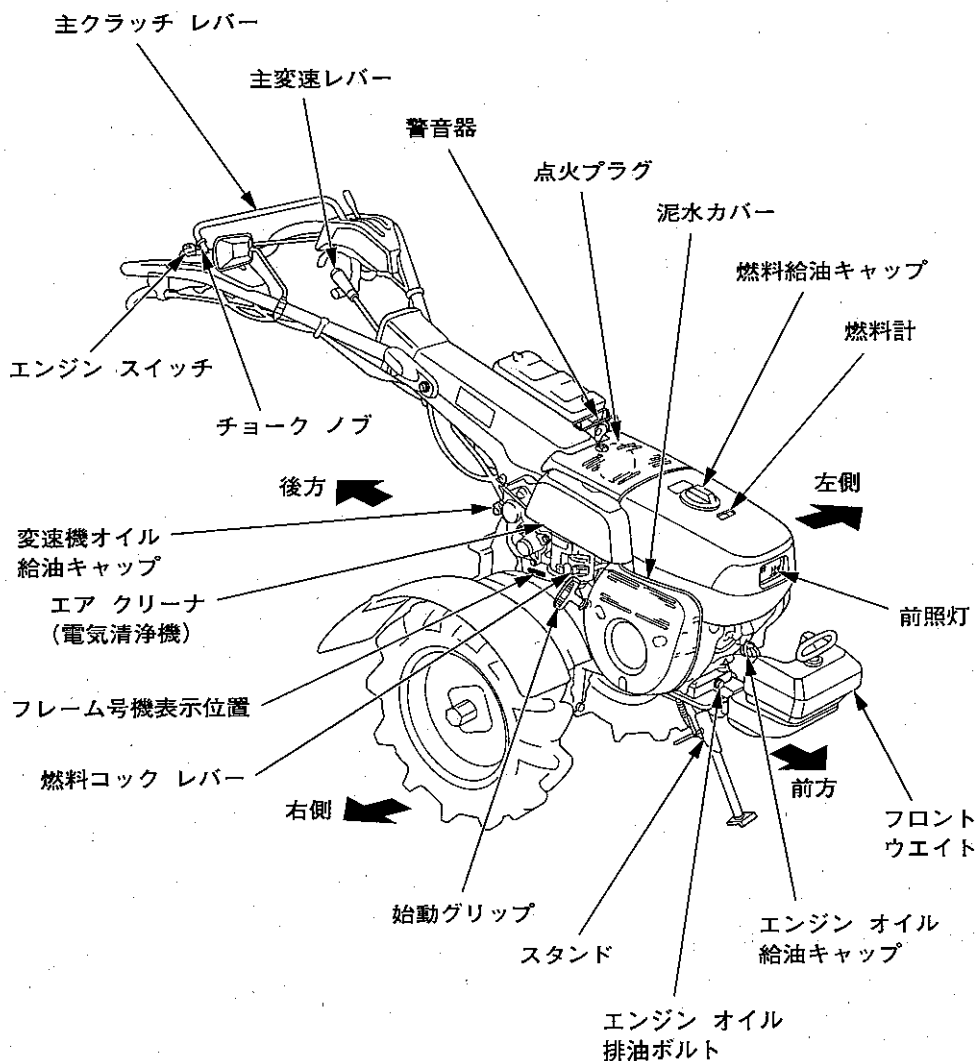
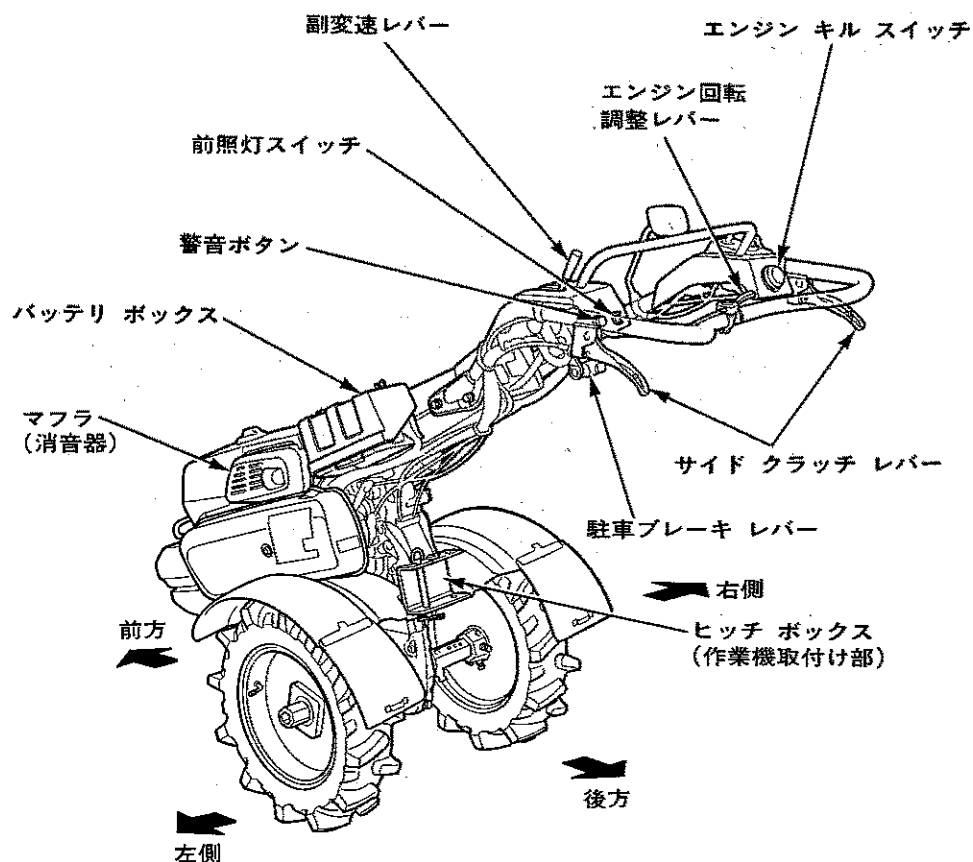
●自動車損害賠償責任保険のお勧めについて

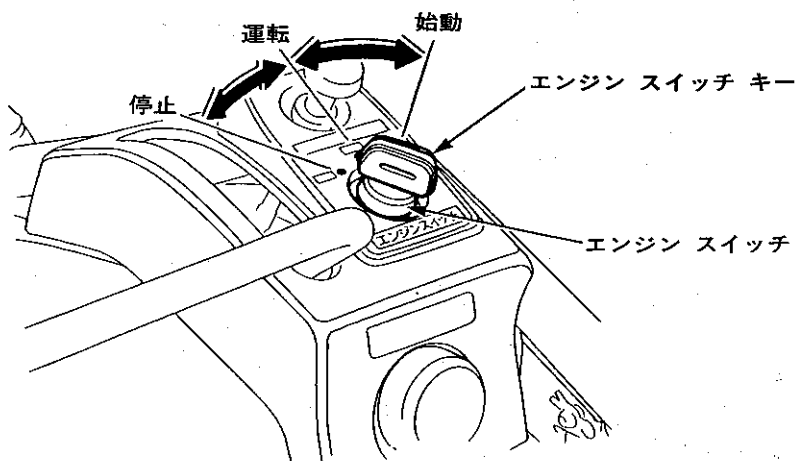
万一の交通事故補償に備え、自動車損害賠償保険、任意保険に加入されることをお勧めします。

●トレーラについて

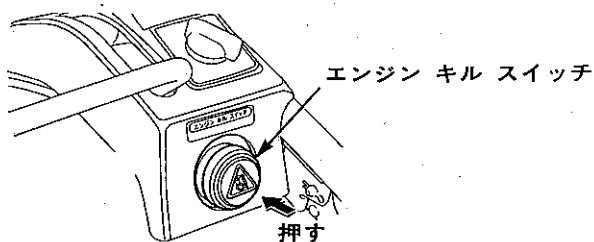
1. ブレーキ、後部反射鏡等が装備され、保安基準に適合するものを使用してください。
2. 最大積載量は法規上500kgとなっていますので、それ以上積まないでください。(トレーラに表示された最大積載量が500kgより少ない場合は、その表示に従ってください。)

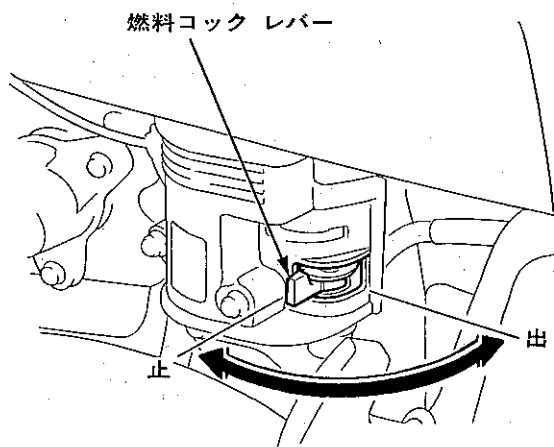
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

副変速レバー
エンジン キル スイッチ
エンジン回転
調整レバー
前照灯スイッチ
警音ボタン
バッテリ ボックス
マフラ
(消音器)
サイド クラッチ レバー
駐車ブレーキ レバー
右側
前方
ヒッチ ボックス
(作業機取付け部)
後方
左側

エンジン スイッチ

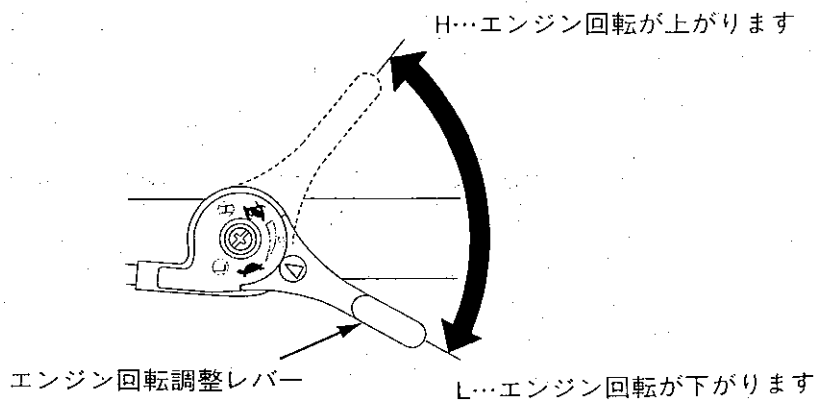
エンジン スイッチ キーでエンジンの始動、運転、停止をするときに操作します。

エンジン キル スイッチ

運転中、緊急にエンジンを停止したい場合に使用します。

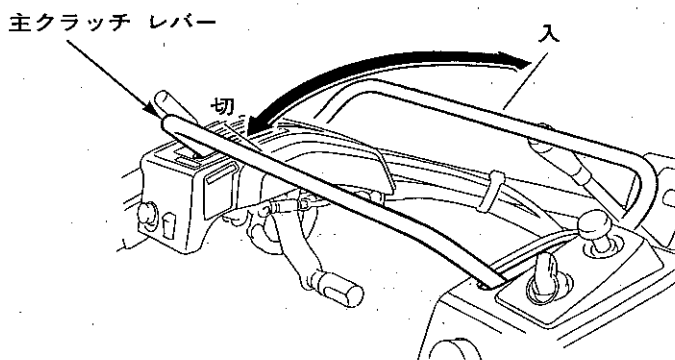
エンジン キル スイッチは押すだけでエンジンが停止できます。

燃料コック レバー

タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。

エンジン回転調整レバー

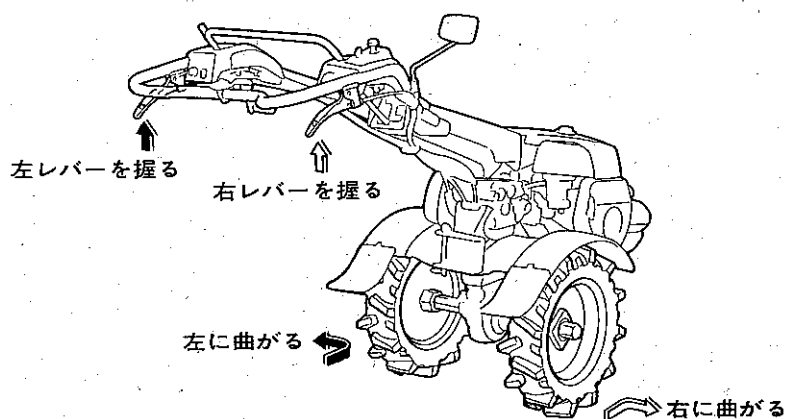
エンジン回転を調整するものです。

エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。

主クラッチ レバー

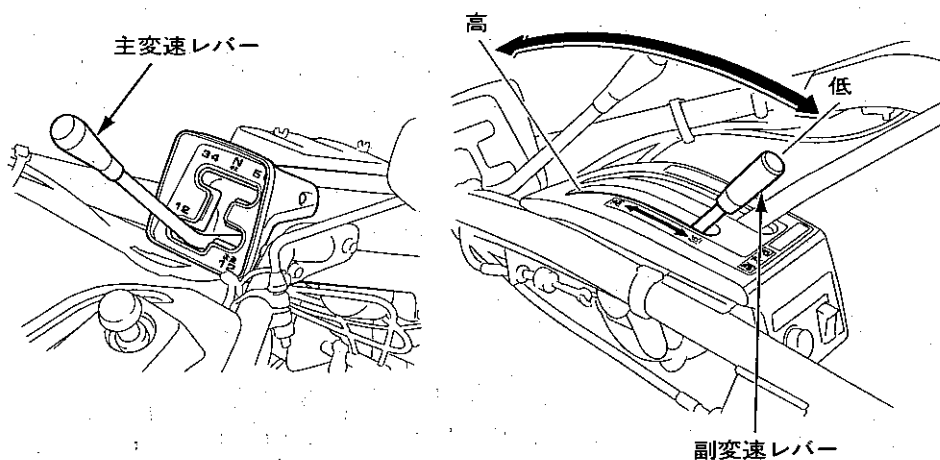
主クラッチは、車輪および動力取出軸への動力を断接する装置です。

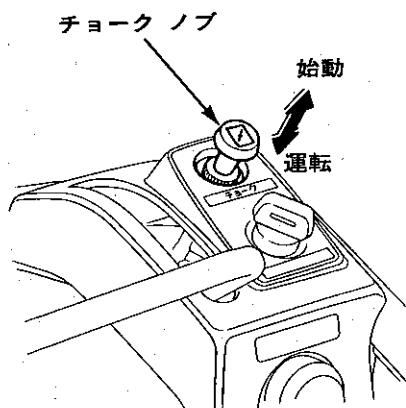
主クラッチ レバーを手前に引くと動力が切れ、前方に倒すと動力が伝わります。

サイド クラッチ レバー

方向を変えるときに使います。

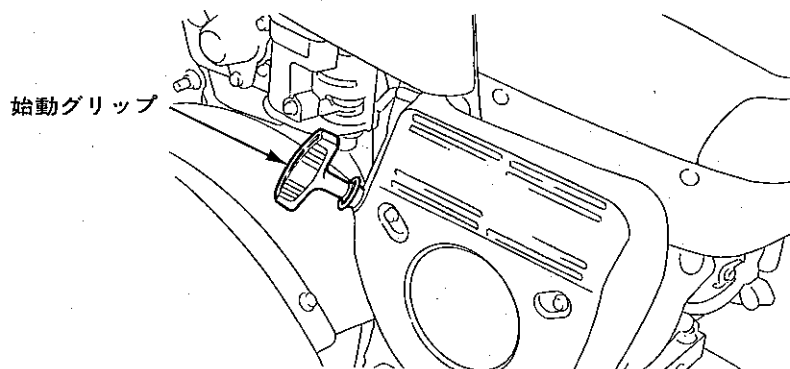
レバーを握ると握った方向に曲ります。

主変速レバー、副変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。

主変速レバーと副変速レバーの切りかえによって前進6段、後進2段となります。

チョーク レバー、チョーク ノブ

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。

始動グリップ

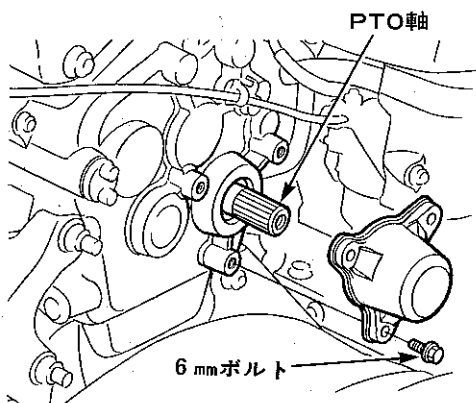
エンジンを始動するときに操作します。

セルフ スターダが使えないときに使用します。

PTO軸(動力取出し軸)

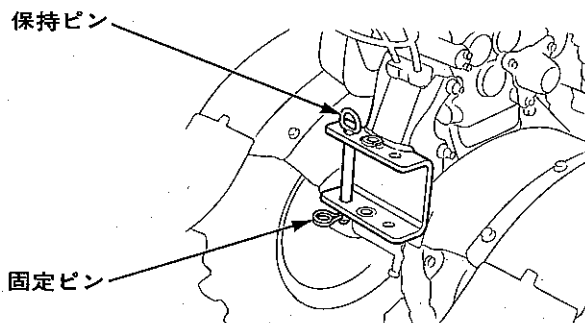
PTO軸は定置作業、動噴、草刈、中耕ロータリ等に使います。

動力の取出しは6mmボルト3本を外し、PTO軸カバーを取外して行ないます。

⚠警告

PTO軸カバーは、PTO軸を使わないときは常にカバーを取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたりし、ケガをするおそれがあります。

ヒッチ ボックス(作業機取付け部)

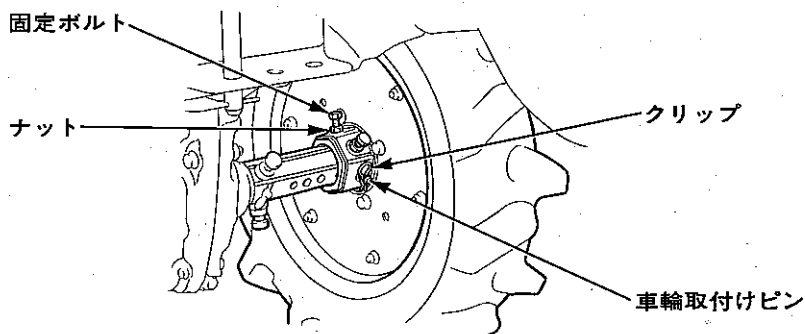
作業機を取付けるところです。

取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。

車輪取付けピン

車輪の取付け、取外し、車輪幅の調整を行うときに取扱います。

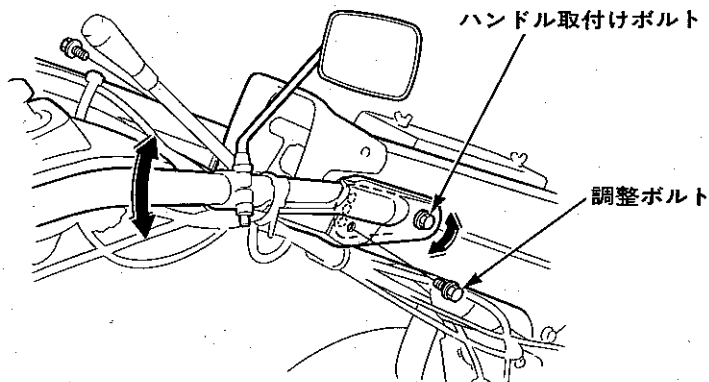
《調整のしかた》

ナット、固定ボルトをゆるめ、ピン、車輪取付けピンをはずし、任意の穴にさしかえます。

> **⚠注意**
>
> 車輪を取外すときは、2人で行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。

ハンドル高さ調整ボルト

ハンドルの高さを作業内容、運転者の身長に合わせるためのボルトです。

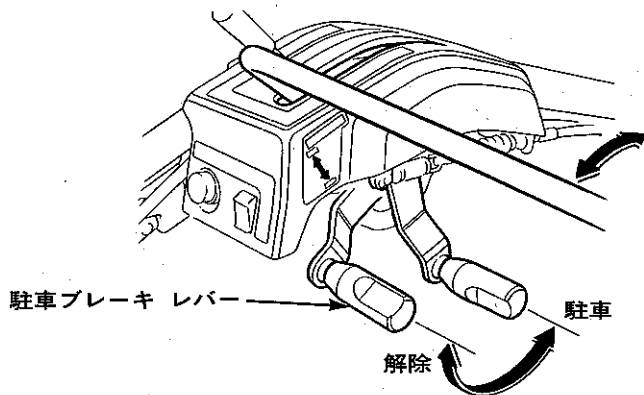
《調整のしかた》

ハンドル取付けボルトをゆるめ、調整ボルトを外し、任意の穴に差しかえ調整します。調整後ボルトは確実に締付けてください。

駐車ブレーキ レバー

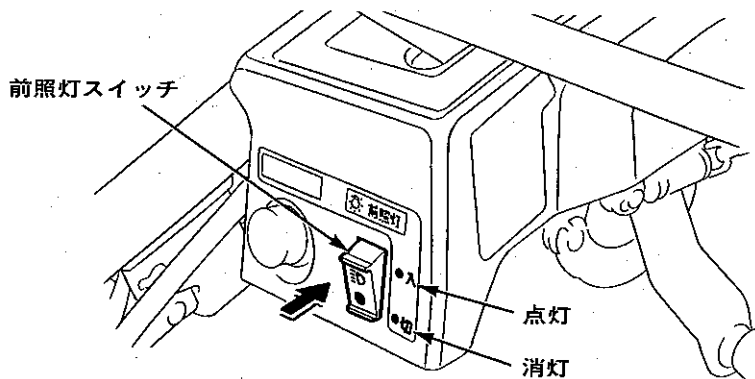
本機を駐車するときに使用します。

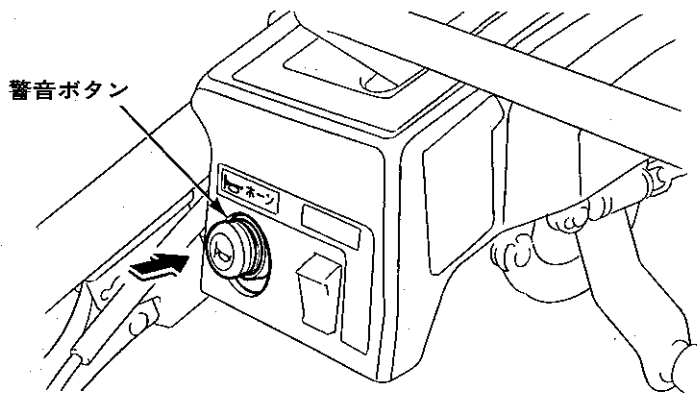
レバーを前方へ押すと〝**駐車**〟になり、手前に引くと〝**解除**〟します。駐車ブレーキ レバーは、主クラッチ レバーと連動しており主クラッチ レバーを〝**入**〟にすると自動的に解除されます。

取扱いのポイント

・トレーラ走行中、制動ブレーキとして使用しないでください。
・主クラッチ レバーを〝入〟にした時にもブレーキは自動的に解除されるので、坂道に駐車している時などは注意してください。

前照灯スイッチ

夜間作業を行うときに使用します。

エンジン運転中にスイッチを〝**入**〟にすると点灯し、〝**切**〟にすると消灯します。

警音ボタン

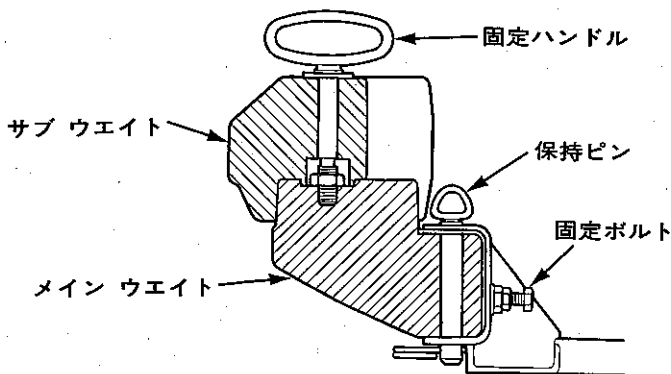
エンジン スイッチを〝運転〟の位置にした状態で、警音ボタンを押すと警音器が鳴ります。

取扱いのポイント

エンジンが始動していない状態で警音器を鳴らしつづけるとバッテリがあがる恐れがあります。

フロント ウエイト

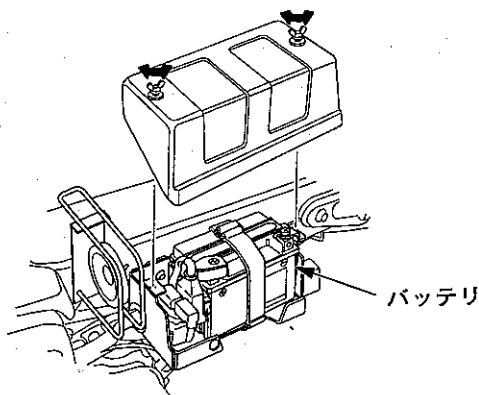
メイン ウエイト、サブ ウエイトの2つに分かれています。作業内容に応じて本機重量の増減に使用します。

《取付けかた》

1. 図のようにメイン ウエイトを保持ピンで取付け、左右の固定ボルトで固定します。
2. サブ ウエイトをメイン ウエイトの上にのせ、固定ハンドルで固定します。

バッテリ

このバッテリは密閉式です。液洩れや補水の心配がないメンテナンス不要バッテリです。

⚠注意

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は補充電を行ってください。保管中、6ヶ月に一度別売指定充電器または市販の充電器で補充電を行ってください。

作業前に点検調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

●本機のまわり ……………………・燃料の量(28頁参照)、オイルの量(30頁参照)は規定量入っていますか。
・燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
・エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。

●レバーの作動 ……………………・レバーの遊び量(56～60頁参照)は規定どおりですか。
・引っかかりはないですか。
・スムーズに作動しますか。

●タイヤの空気圧 …………………・タイヤの空気圧は適正ですか。(32頁参照)

●各部の締付け ……………………・ハンドル高さ調整ボルトにゆるみ、がたはないですか。
・ボルト、ナットにゆるみはないですか。

●配線、ケーブル類 ………………・被覆のやぶれ、切れはないですか。
・配線、ケーブルのはさまりはないですか。

●エンジンの始動、停止 …………・エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は35～42頁参照)
・エンジン スイッチで確実に停止しますか。(停止手順は49、50頁参照)
・エンジン キル スイッチで確実に停止しますか。
(停止手順は48頁参照)

●前照灯の作動……………………・エンジンを始動し、前照灯スイッチを〝入〟にすると前照灯は点灯しますか。(24頁参照)

●警音器の作動……………………・エンジン スイッチが〝運転〟の位置で警音ボタンを押すと警音器は鳴りますか。(24頁参照)

●その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンの補給は
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置以下で補給してください。
  入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむき燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置(レベル)までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。

スタンドを立てた状態では本機の前傾があるため、燃料計の確認の際は必ず本機を水平状態にしてください。

補給

使用ガソリン：自動車用無鉛レギュラーガソリン

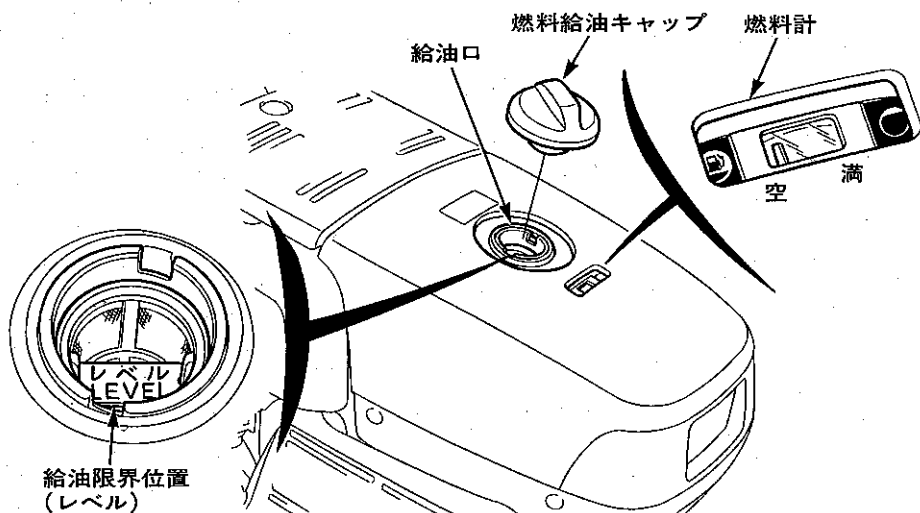
タンク容量：3.9ℓ

●燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置以下で補給してください。

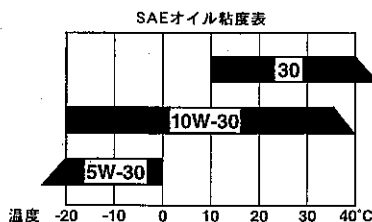
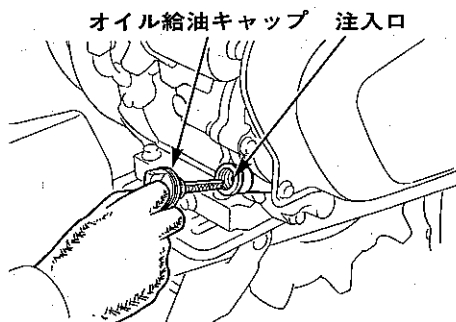
●燃料給油キャップは完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

●給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。

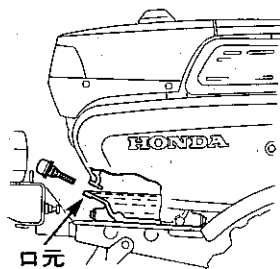
取扱いのポイント

- 水や不純物が混ざっていない、新しいガソリンを使用してください。
  ガソリンは日にちがたつにつれて劣化していきます。
  劣化したガソリンを使用するとエンジン故障の原因になります。
- 必ず無鉛レギュラー ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン オイルの点検

点検

本機を水平状態にして、オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

補給

●少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。

●汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は52頁参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。

●推奨オイル(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

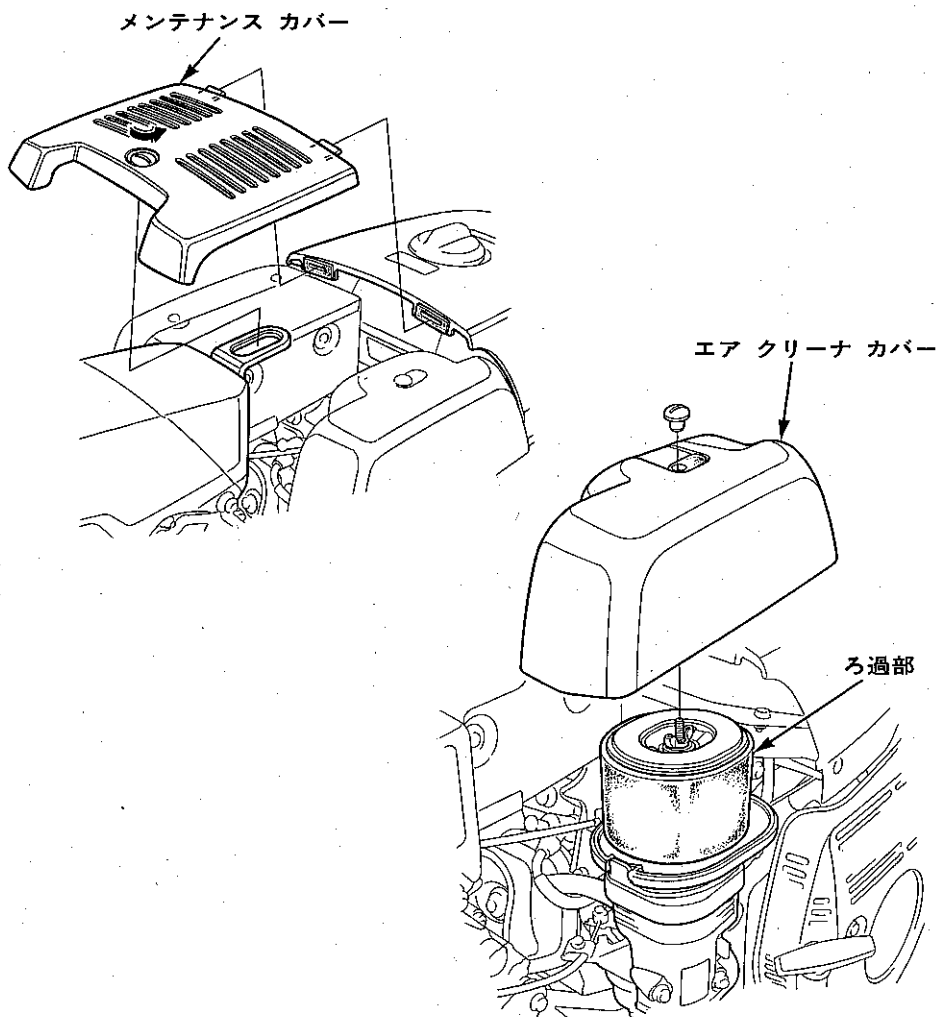
取扱いのポイント

・低温時(気温10℃以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
・寒冷地では、API分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア クリーナ(空気清浄器)の点検

メンテナンス カバーを外します。

エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。汚れている場合は清掃してください。

(清掃時期、方法は55頁参照)

タイヤ空気圧の点検

点検

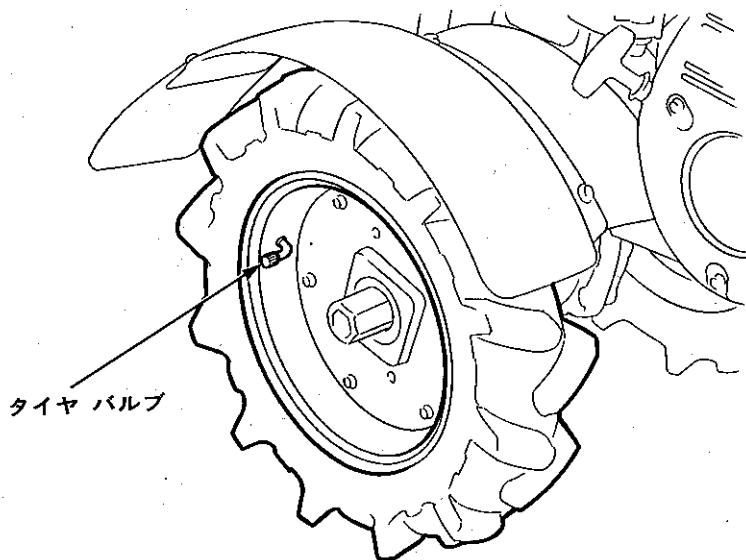
空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低過ぎるとタイヤの寿命を短かくします。

空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

補給

バルブ キャップを取外し、タイヤ バルブより空気を注入します。

タイヤ サイズ：4.00—12

標 準 空 気 圧：118kPa(1.2kgf/cm²)

トレーラ走行前の点検

注)●はトレーラの装備品です。
○は耕うん機の装備品です。

★走行前に必ず次の点検をしてください。

●トレーラの主ブレーキ(足踏みブレーキ)は効きますか?
●トレーラの駐車ブレーキは効きますか?
●ナンバ プレートの取付け状態は適切ですか?
●反射鏡の汚れ、破損はないですか?
●その他トレーラ各部の点検整備を十分行ってください。

○後写鏡は装備してありますか?
○安定性を高めるため、本機の車輪幅を出来る限り広くしてください。
○ヒッチ ピン、固定ピンは確実に取付いていますか?
○車輪取付けピンの取付けは確実ですか?
○車輪のガタ、異常の有無を点検してください。

泥水カバーの点検、清掃

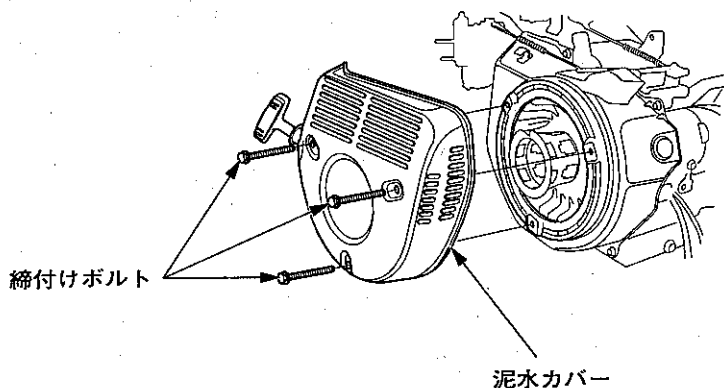
点検

泥水カバー上部より目視にて点検します。草や土が入っていたり、泥水が入った場合は清掃してください。

清掃

泥水カバー内に草や土が入っていると冷却風の不足やオーバー ヒートの原因となる場合がありますので必ず清掃を行ってください。

《清掃のしかた》

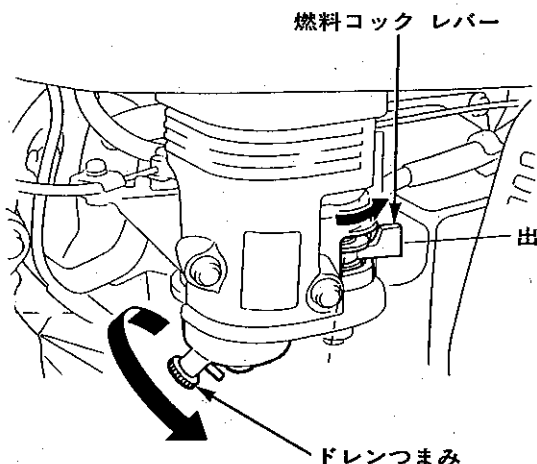
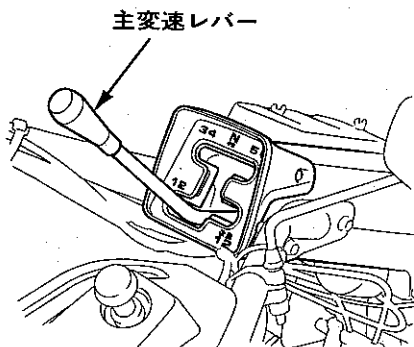
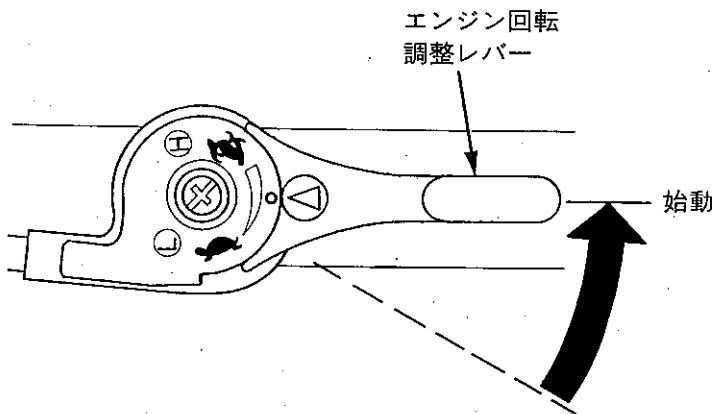
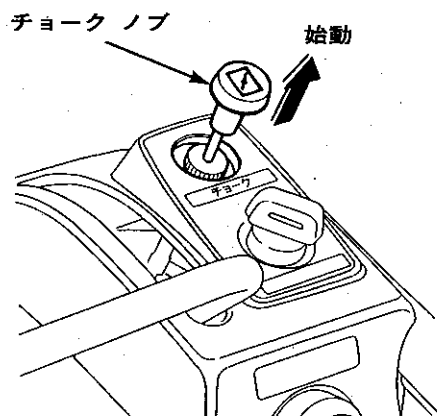
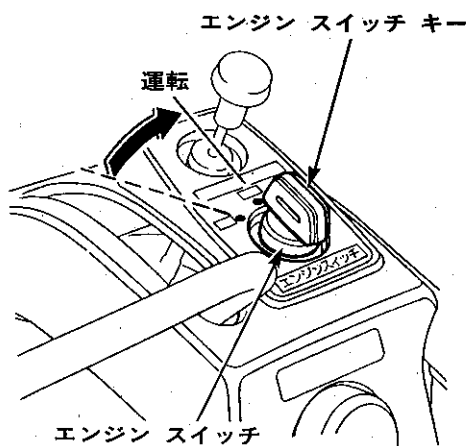
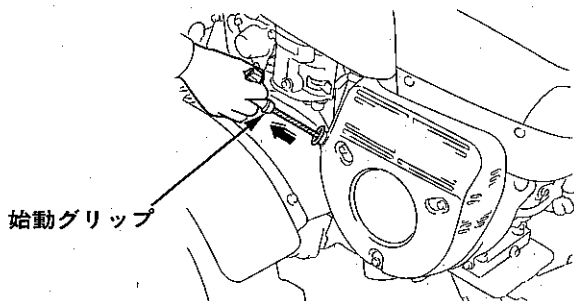
1. 締付けボルト(3ヶ)を外し泥水カバーを取外します。
2. カバー内の草や泥を取除きます。
3. 清掃後、元の位置にセットし、締付けボルトを確実に締付けてください。

エンジンのかけかた

⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒のおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチ レバーが〝切〞、変速レバーが〝中立〞になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

リコイル スタータによるかけかた

(バッテリ上がり等によりセルフ スタータが使えない場合)

1．燃料コック レバーを〝**出**〞に合わせます。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。

2. 主クラッチ レバーが〝**切**〃、主変速レバーが〝**中立**〃になっていることを確認します。

3. エンジン回転調整レバーを〝**始動**〃に合わせます。

4．寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョークを使用します。
チョーク ノブを一杯に引きます。

5．エンジン スイッチを〝**運転**〟に合わせます。

6．ハンドル コラムを左手でおさえ、右手で始動グリップを引いて重くなる所をさがし、そこから勢いよく引きます。

⚠注意

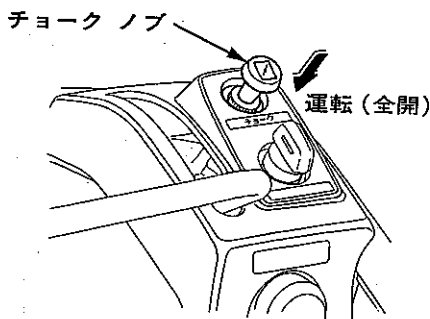
始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

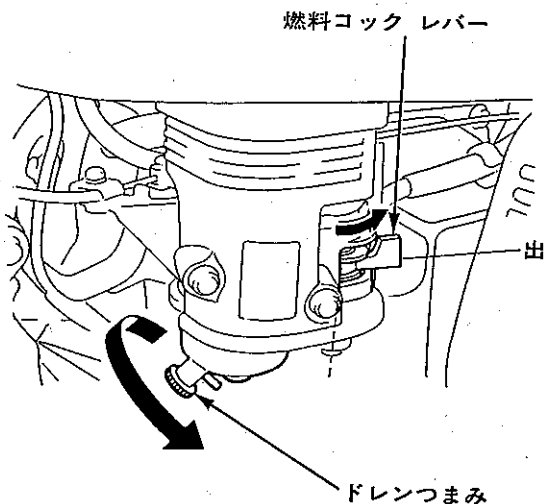
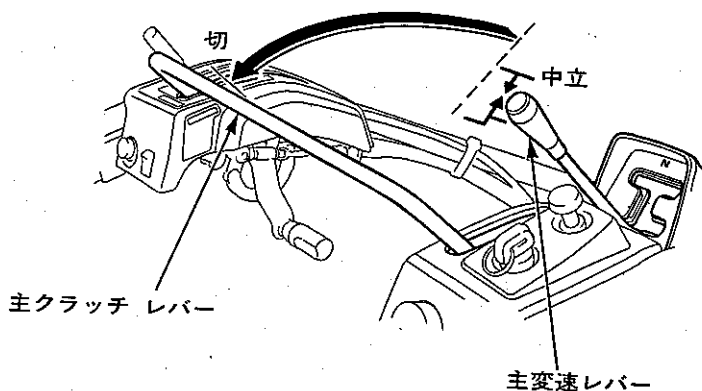
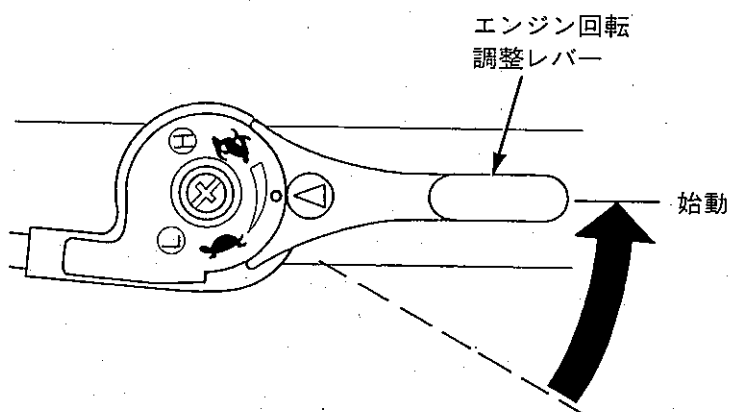
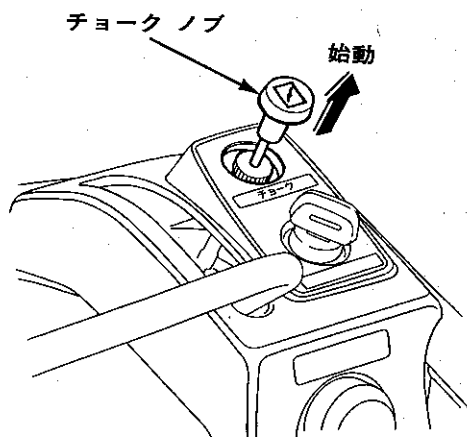
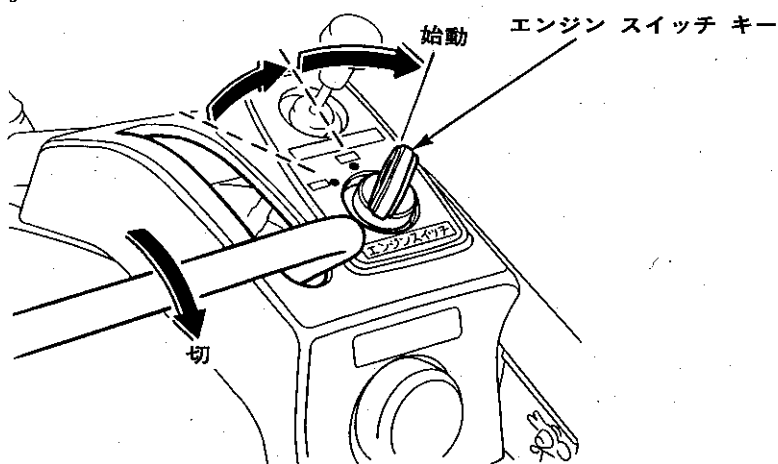
取扱いのポイント

・始動グリップを引いたあと手を放さないでください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

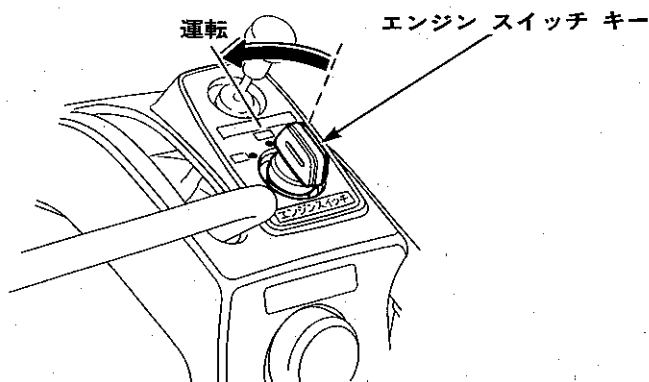
7．エンジンが **始　　動** します。

8．２～３分間暖機運転を行ないます。

・チョーク ノブを引いた時は、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻して〝運転(全開)〟の位置にします。

セルフ スタータによるかけかた

1．燃料コック レバーを“出”に合わせます。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。

2．主クラッチ レバーが“切”、主変速レバーが“中立”になっていることを確認します。

3．エンジン回転調整レバーを〝**始動**〟に合わせます。

4．寒い時やエンジンがかかりにくいときには、チョーク ノブを一杯に引きます。

5．主クラッチ レバーが"**切**"の状態でキーを差し込み"**始動**"の位置まで回わします。

取扱いのポイント

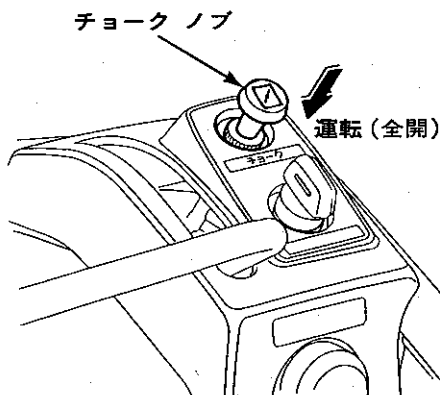
・エンジン始動時、主クラッチ レバーが"切"の位置でないとエンジンが始動しない機構になっています。
・－5℃以下の低温地域ではセルフ スタータが始動できない場合があります。この場合はリコイル スタータで始動してください。

6. エンジンが始動したら、キーを〝**運転**〟の位置にもどします。

取扱いのポイント

・スタータ モータは大電流を消費しますので5秒以上の連続使用は避けてください。5秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを停止にして10秒以上休んでから再び始動の操作を行ってください。
・エンジンが始動した後、キーを〝始動〟の位置にしたままですと、始動装置を損傷させる原因となります。

7. エンジンが **始　　動** します。

8. 2～3分間暖機運転を行ないます。

チョーク ノブを引いた時はエンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻して〝**運転(全開)**〟の位置にします。

運　転　操　作　の　し　か　た

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

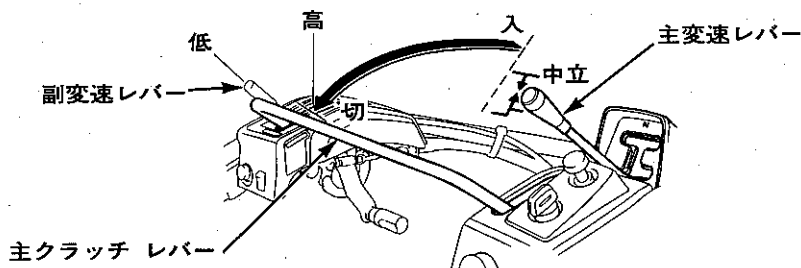
主変速レバー、副変速レバー

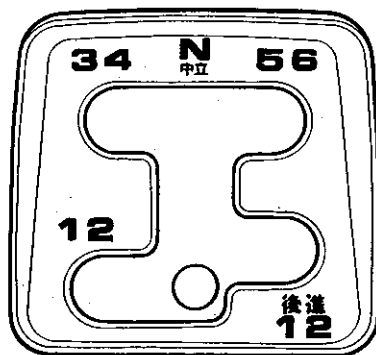
変速表の適応作業を目安に作業の状況に合せ適切な変速位置を選びます。(44頁参照)速度が速すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

1) 主変速、副変速レバーは、必ず主クラッチを切ってから操作します。
2) 主変速レバーが作動しにくい時には一旦主変速レバーを〝**中立**〟に戻し、主クラッチをすばやく〝**入**〟〝**切**〟に作動させてからもう一度操作します。
3) 後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転してください。

⚠警告

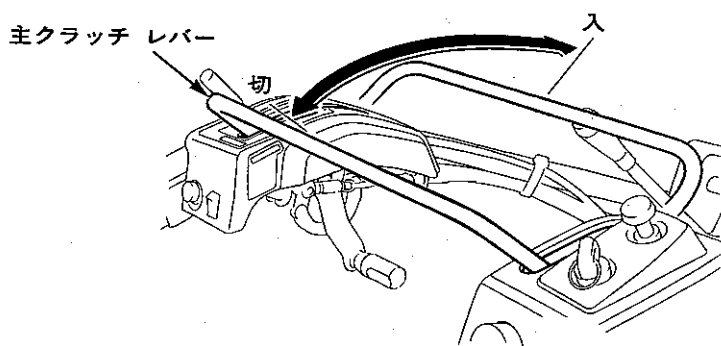
後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。
・後方に人や障害物がないことを確認してください。
・エンジン回転を下げてください。
・ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
・クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にしてください。

● 変速表

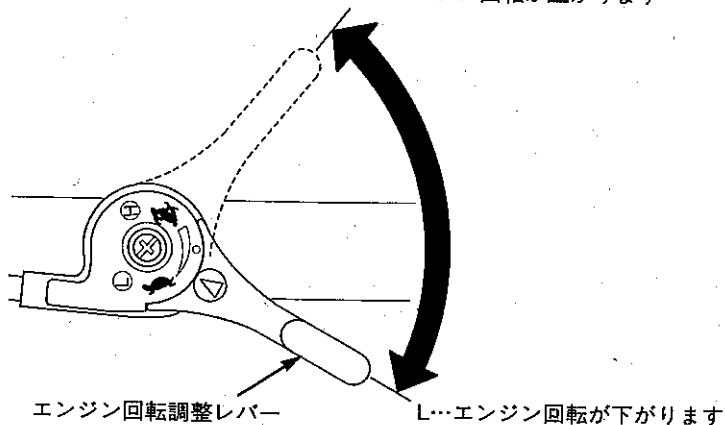
副変速	主変速位置	車軸回転数 rpm	適　応　作　業
低　速	1	7.8	ロータリ耕うん
	3	26.0	スキ耕
	5	72.2	ロータ耕起、代掻き、トレーラ
	後進 1	11.8	バック移動用
高　速	2	13.4	ロータリ耕うん
	4	44.8	代掻き、ロータ耕起
	6	124.4	トレーラ運搬
	後進 2	20.4	バック移動用

運転

主クラッチ レバー

主クラッチ レバーの操作は、静か（スムーズ）に行います。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

主クラッチの機能

- レバーを引く…クラッチ〝**切**〟…動力が切れる。
- レバーを倒す…クラッチ〝**入**〟…動力が伝わる。

エンジン回転調整レバー

レバーを〝**H**〟方向にまわし、エンジン回転を上げます。

旋回

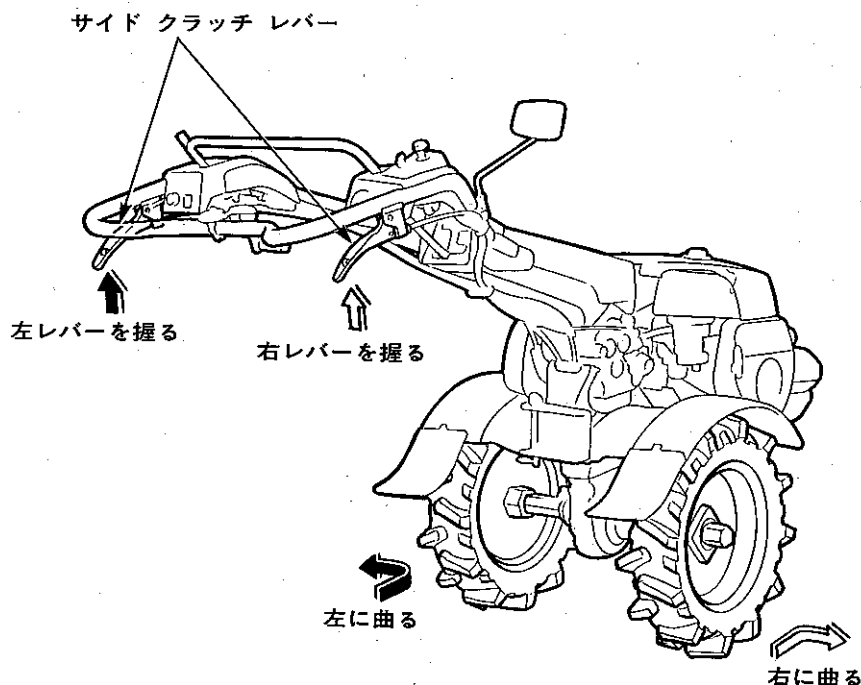
サイド クラッチ レバー

⚠警告

- 高速運転時、サイド クラッチ レバーを操作しないでください。
  高速時操作すると、本機が急旋回し走行が不安定となり、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 登り坂、下り坂ではサイド クラッチ レバーを操作しないでください。
  登り坂、下り坂でサイド クラッチ レバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したりし、事故、けが、本機の故障をまねくおそれがあります。

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。

右レバーを握る…右に曲がります。

左レバーを握る…左に曲がります。

動力取出し

⚠警告

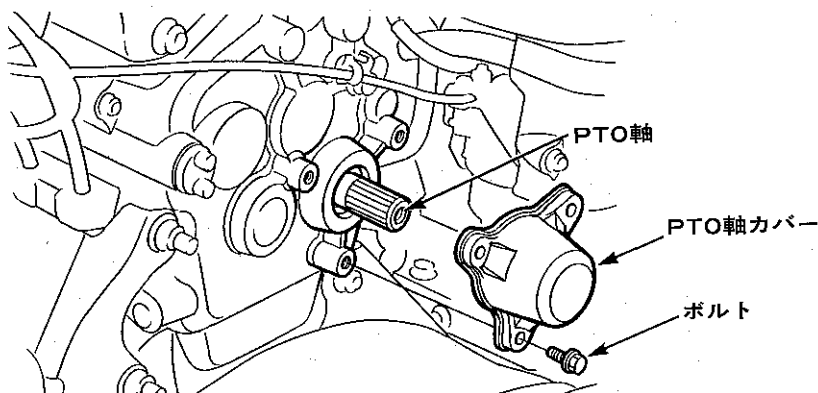
PTO軸カバーは、PTO軸を使わないときは常に取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたりし、ケガをするおそれがあります。

PTO軸の使いかた

・動力は、ミッション ケース右側のPTO軸より取出します。

1．ボルト3本を外し、PTO軸カバーを取外します。

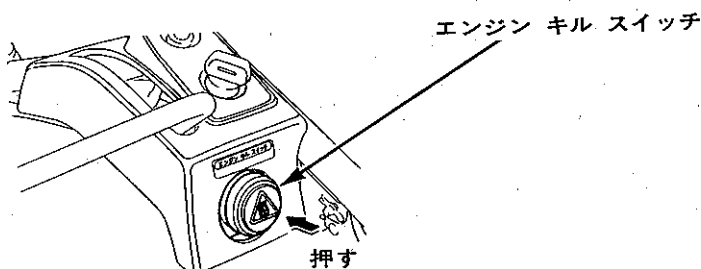
2．プーリを取付け、ボルトで締付けます。

PTO軸回転数：879rpm（エンジン回転3,400rpm時）

⚠警告

・本機のスタンドを立て、たおれないようにしっかりと固定してください。
・変速レバーを中立にしてください。中立にしないと本機が動き出し、ケガをするおそれがあります。

エンジンのとめかた

●緊急停止の場合

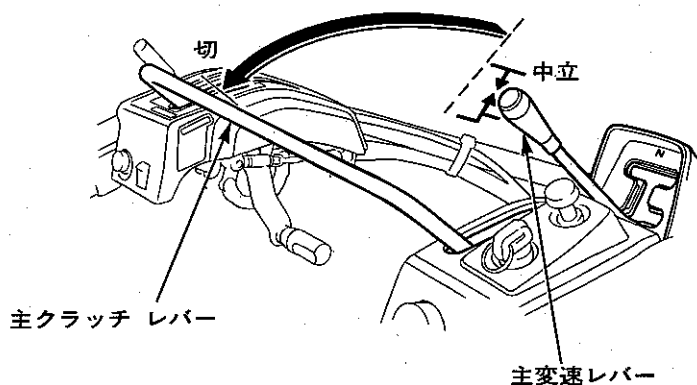
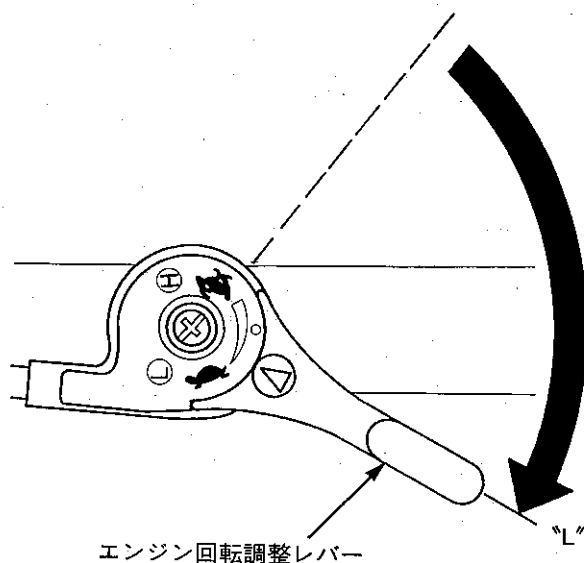
エンジン キル スイッチを押すとエンジンが停止します。
エンジン キル スイッチを使用して緊急停止をした場合は、エンジン スイッチを〝停止〃にし、主クラッチ レバーを切り、エンジン回転調整レバーを〝L〃の位置に戻して、変速レバーを〝中立〃にしてください。

⚠注意

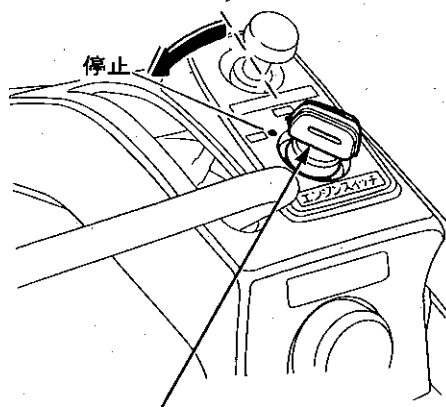
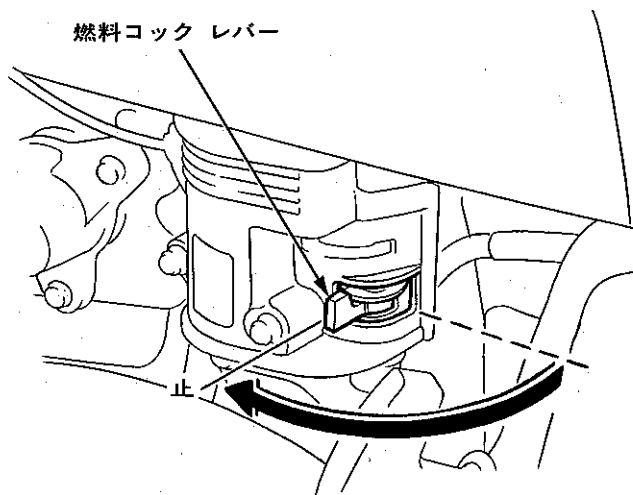
トレーラ走行では、走行中エンジン キル スイッチを操作しないでください。急激なエンジン ブレーキがかかり、走行が不安定となり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

通常のエンジン停止、保管点検時は、エンジン スイッチを〝停止〃にしてエンジンを止めてください。エンジン キル スイッチは緊急停止の場合に使用してください。

●通常停止の方法

1．主クラッチ レバーを〝切〟、変速レバーを〝中立〟にします。

2．エンジン回転調整レバーを戻し、〝L〟にします。

3．エンジン スイッチを〝**停止**〟にします。

本機から離れる時は、
必ずエンジン スイッチ キー
を抜いてください。

4．燃料コック レバーを〝**止**〟にします。

定期手入れを行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期(2)		稼働期前	作業前点検	初回20時間運転目	50時間運転毎	100時間運転毎	1年に1回又は300時間運転毎
エンジン オイル〈注1〉	点検		○				
	交換	○		○		○	
本機の周り	点検		○				
各部の締付け	点検		○				
配線、ケーブル類	点検		○				
タイヤ空気圧	点検		○				
エンジンの作動	点検		○				
レバー類の作動	点検		○				
変速機オイル〈注1〉	点検	○					
エア クリーナ	点検		○				
	清掃				○(1)		
	交換						○
点火プラグ	点検、調整					○	
	交換						○
燃料ろ過カップ	清掃					○	
アイドル回転	点検、調整						○(3)
エンジン回転調整ケーブル	調整						○
吸入、排気弁すき間	点検、調整						○(3)
燃焼室	清掃	500時間運転毎(3)(4)					
サイド クラッチ ケーブル	調整			○		○	
副変速ケーブル	調整			○		○	
主クラッチ ケーブル	調整			○		○	
駐車ブレーキ ケーブル	調整						○
駆動ベルト	調整			○		○	
燃料タンク及びフィルター	清掃	○				○(3)	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)					

〈注1〉 エンジン オイル交換…稼働期前にも必ず交換してください。
　　変速機オイル交換……汚れを確認し汚れがひどい場合に交換してください。

(1) ホコリの多い所で使用した場合は、エア クリーナの清掃は10時間運転毎又は1日1回行ってください。
(2) 点検時期は表示の期間毎又は運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(3) 販売店又はサービス店で実施していただく項目です。
(4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

・バッテリ付仕様は長時間使用しない場合、又は作業を終わり長期格納する場合は、保管中6ヶ月に一度指定充電器で補充電を行ってください。

やさしい点検・整備

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

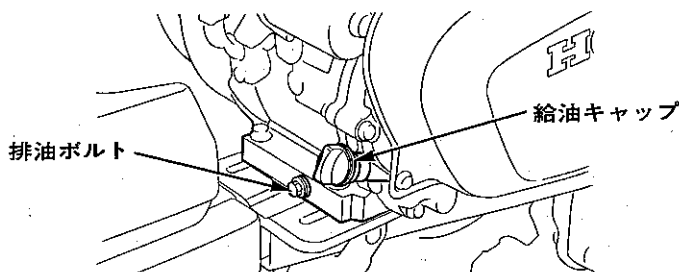
《交換時期》　初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎。また、稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。
《エンジン オイル量》 1.1ℓ

取扱いのポイント

- 低温時(気温10℃以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。

交換のしかた

1．オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2．排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリング ワッシャを取付け、シリンダ バレルに確実に締付けます。
3．注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

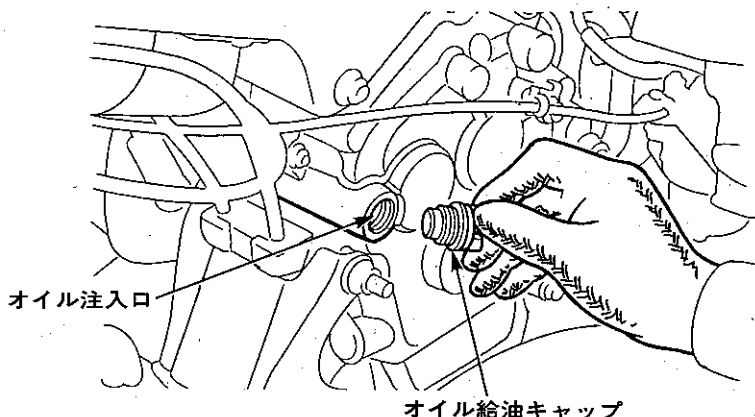
取扱いのポイント

・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
・必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
・交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。
　不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

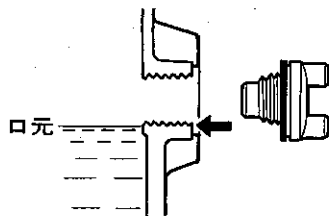
変速機オイルの点検

《点検時期》 稼働期前

点検

・オイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。
すくない場合は補給してください。
・汚れを確認し、汚れがひどい場合は交換してください。
交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。

補給

《推奨オイル》Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

・オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
・補給後、キャップは完全に締付けてください。

取扱いのポイント

・低温時(気温10℃以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
・寒冷地では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

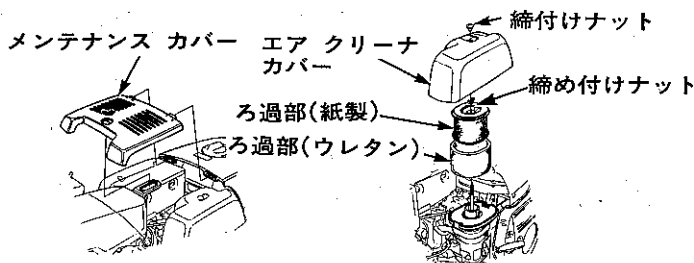
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア クリーナが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は10時間運転毎または1日1回
《交換時期》　1年に1回または300時間運転毎

1. メンテナンス カバーを外します。
2. 締付けナットをゆるめ、図のようにエア クリーナ カバーを外し、ろ過部を取外します。
3. ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。
4. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
5. 点検後はエア クリーナ カバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。

取扱いのポイント

・エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

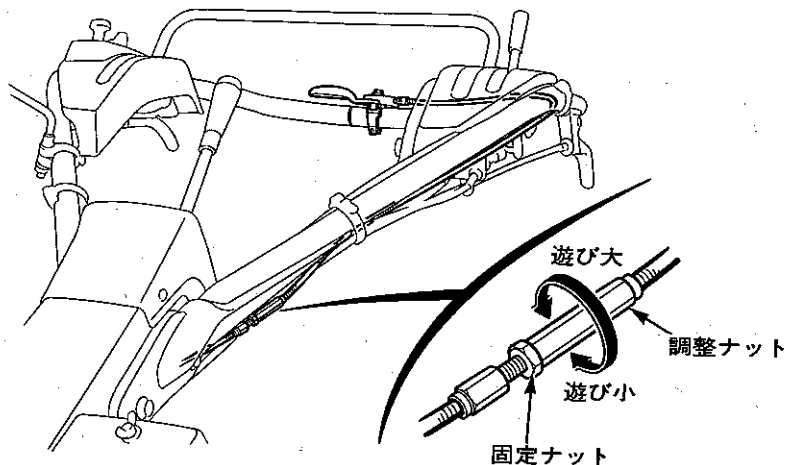
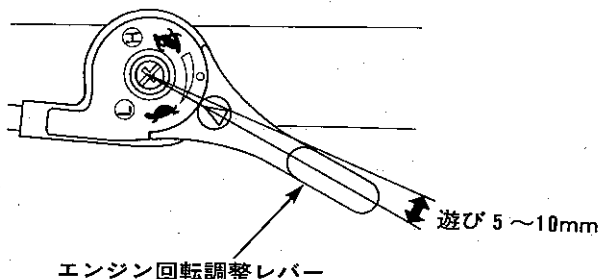
《調整時期》

1年に1回または300時間運転毎

調　整

1．エンジン回転調整レバーが"L"の位置の遊びが、先端で5～10mmになるように調整します。

2．調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットをまわして行なってください。

3．調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

サイド クラッチ ケーブルの調整

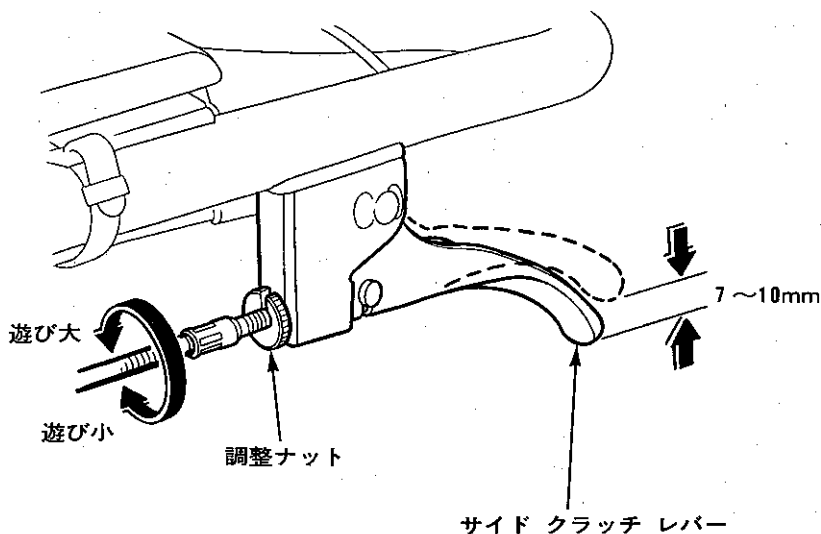
サイド クラッチ ケーブルの調整が完全でないとサイド クラッチの切れが悪くなります。

《調整時期》

初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

調 整

1．サイド クラッチ レバーの遊びがレバー先端で7～10mmになるように、左右同じ要領で調整します。

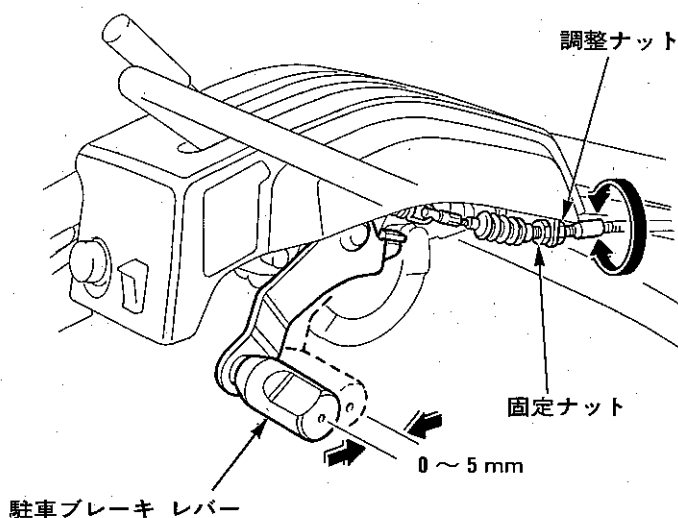
2．調整は、調整ナットをまわして行います。

駐車ブレーキ ケーブルの調整

駐車ブレーキ ケーブルの調整が完全でないとブレーキの作動不良の原因となります。

《調整時期》

1年に1回または300時間運転毎

調整のしかた

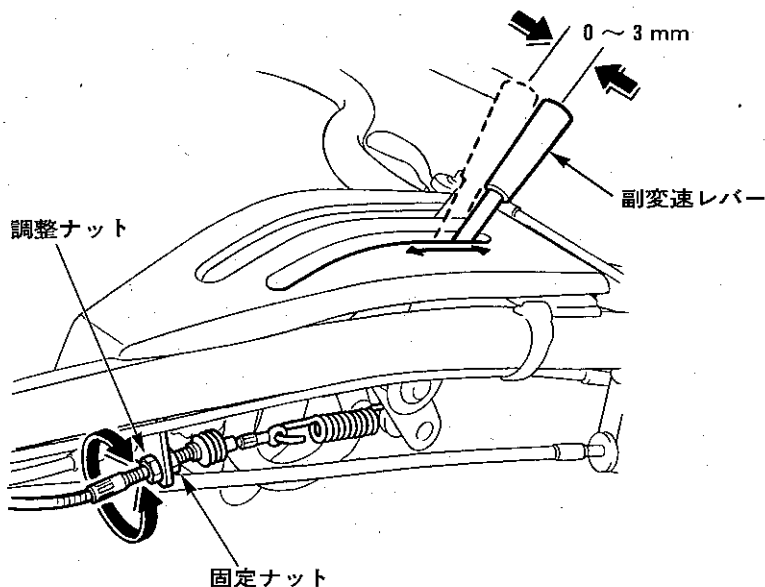
1．駐車ブレーキ レバーの遊びがレバー先端で0～5mmになるように調整します。
2．調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットで行います。
3．調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

副変速ケーブルの調整

副変速ケーブルの調整が完全でないと、副変速の切り換えができなくなります。

《調整時期》

初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

調　整

1. 副変速レバー、〝**低**〞の位置で、レバー先端の遊びが０～３mmになるように固定ナットをゆるめ、調整ナットで行います。
2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

主クラッチ ケーブルの調整

主クラッチ ケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったりクラッチがすべったりします。

《調整時期》

初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

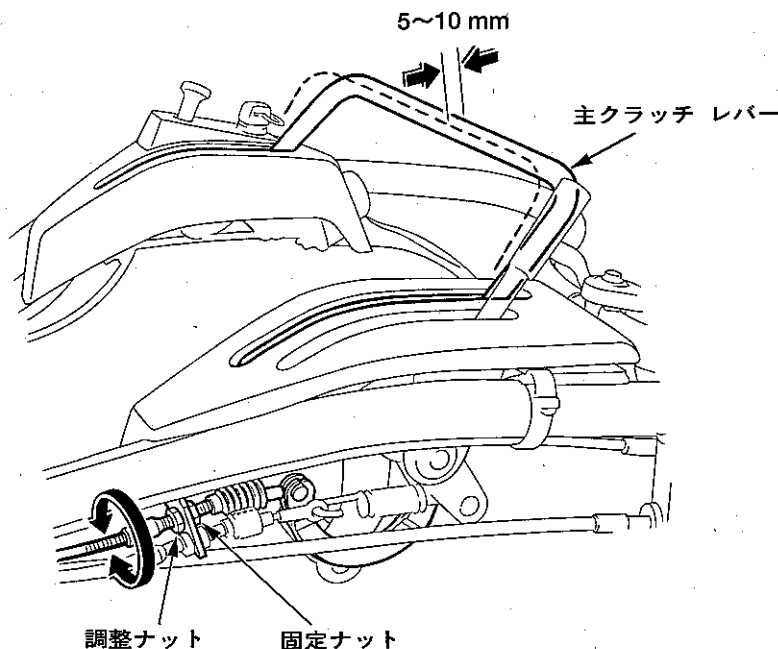
調 整

1．主クラッチ レバーを〝切〟にします。

2．主クラッチ レバーの遊びがレバー先端で下記寸法になるように調整します。

5～10 mm

調整は固定ナットをゆるめ、調整ナットで行います。

3．調整後は固定ナットを確実に締付けてください。また、主クラッチ レバーを数回〝入〟〝切〟し、再度遊びを確認してください。

駆動ベルトの点検・調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

⚠注意

調整後は、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落しておもわぬ事故が発生するおそれがあります。

《調整時期》

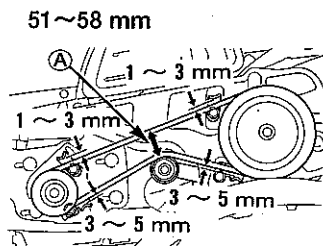
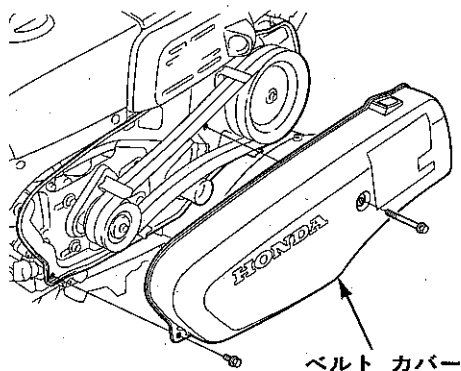
初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

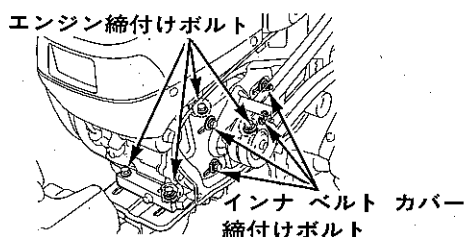
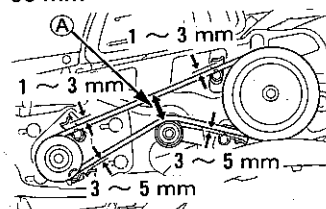
点検

1．ベルト カバーを取外します。

2．ベルトのすき間及びストッパーのすき間の調整はエンジンを〝停止〟させ点火 プラグ キャップを外し、主クラッチ レバーを〝入〟にした状態で上下ベルトを両手で5～6回つまんでベルトとプーリをなじませてから規定の寸法になるか、点検します。

ベルト間隔：51～58 mm
指定ベルト：バンドSB47　W800L

3．規定寸法外の場合は調整してください。

調整のしかた

1. 主クラッチ レバーを前方に倒した状態(クラッチが"入"の状態)でⒶ部が規定の寸法になるように調整します。
2. 調整は、インナ ベルト カバー締付ボルト、エンジン締付ボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。
3. ベルトとベルト ストッパのすき間を上下とも図のように調整します。

4. 調整は、ストッパ締付ボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行います。
   - 調整後、ボルトは確実に締付けてください。
5. ベルト カバーを取付けます。

⚠注意

ベルト カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると衣類が巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

取扱いのポイント

- 調整時エンジン側プーリーの面と変速機側プーリーの面が一直線になるように合わせてください。合っていないとベルト外れ及びベルトが早く傷みます。
- 指定されたベルトで正しい調整を行わないとベルトの傷みを早めたり、ベルトのすべりや外れ及び主クラッチの切れが悪くなる原因となります。

燃料ろ過カップの清掃

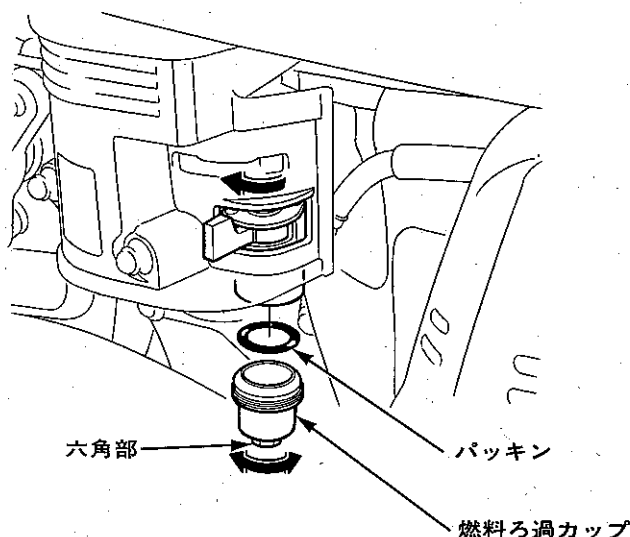
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 燃料ろ過カップの取付け後、漏れないか点検してください。
- ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》 100時間運転毎

清掃のしかた

1. 燃料コック レバーを"**止**"にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、ガソリン漏れのないよう六角部を回して確実に締付けてください。

点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

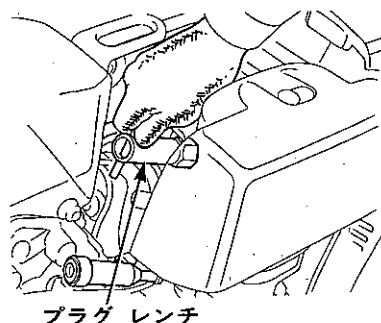
エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

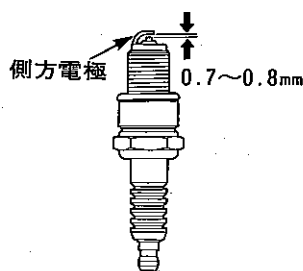
電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検・調整時期》　100時間運転毎

《交換時期》　1年に1回または300時間運転毎

清掃のしかた

1. メンテナンス カバーを外します。
2. 点火プラグ キャップを取外します。
3. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
4. 点火プラグを清掃します。プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   - ・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。

調整

5. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7～0.8mm

《標準プラグ》

BP5ES（NGK）
W16EP-U（DENSO）

取扱いのポイント

・故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。
・プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
・点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

バッテリ補充電

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は補充電を行ってください。

保管中、6ヶ月に一度指定された充電器または市販の充電器(最大充電電流3A以下のもの)で補充電を行ってください。

この機種には密閉型のメンテナンス フリー バッテリが装備されており、バッテリ液の点検、補給は不要です。従って液口キャップは絶対に外さないでください。

補充電のしかた

●指定充電器

部品名：バッテリ チャージ アッシ

部番：08572―73870

①カプラ(青)を取外してください。

②充電器のリード線カプラをオス側カプラに接続してください。

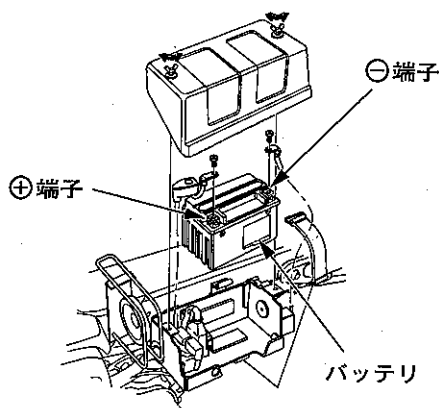
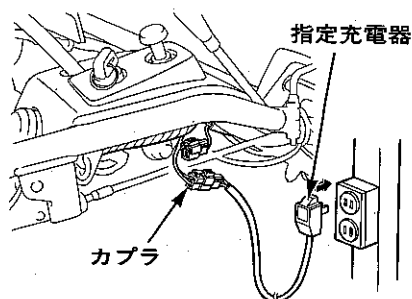
③充電時間：5～10時間

・市販充電器を使用する場合は：

○バッテリは本機より取外して補充電を行ってください。

○バッテリの配線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、はずす時は⊖側からはずしてください。

○充電時間：0.9Aで約5時間(標準)

○端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいる時は確実に締付けてください。端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。

⚠警告

・バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。
バッテリを取扱うときは風通しのよいところでショートによる火花に注意してください。また火気を近づけないでください。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は浸されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
・充電するときは、バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行なってください。外すときは⊖側から外し、接続は⊕側から行なってください。まちがえるとショートする場合があります。

ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

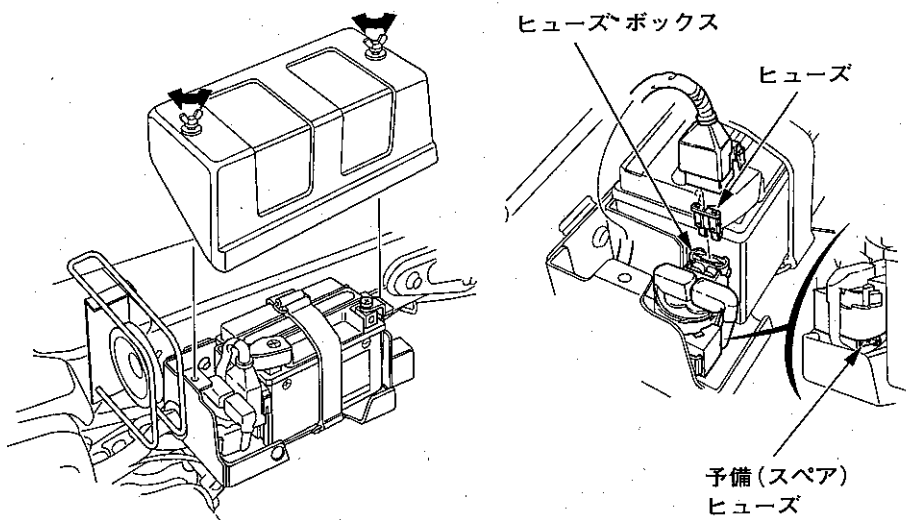
取扱いのポイント

指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

交換のしかた

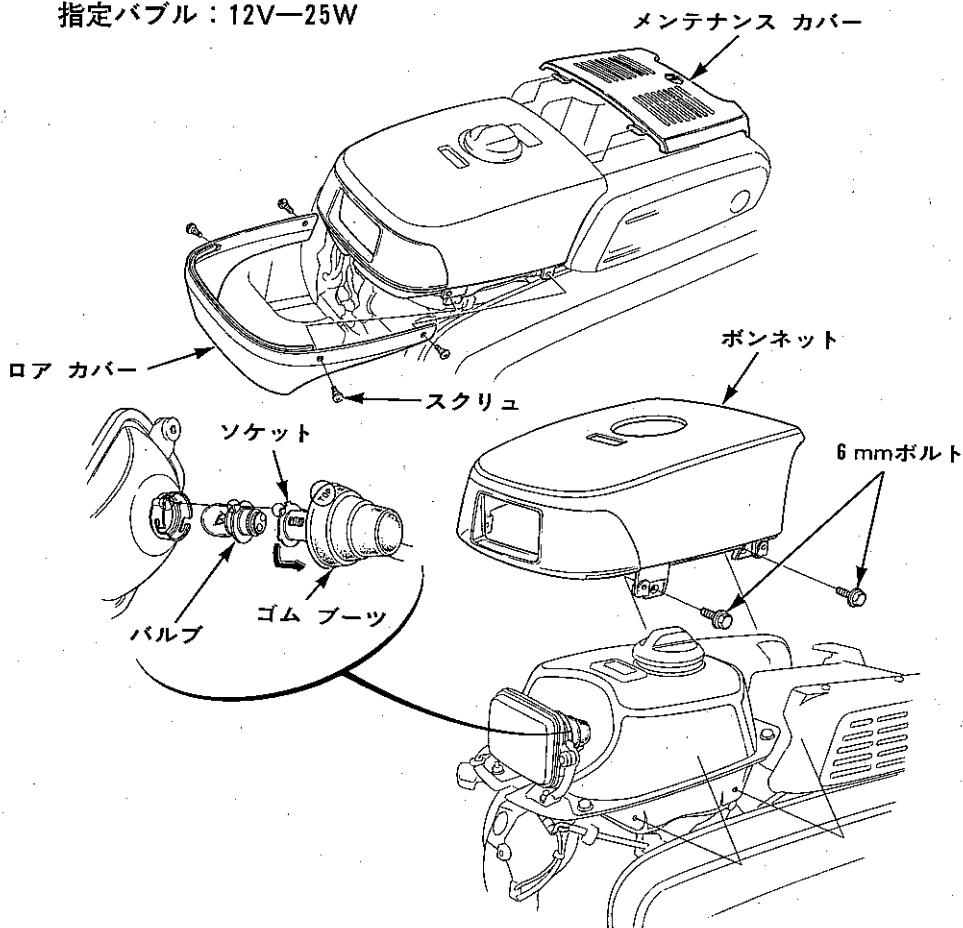
1．バッテリー ケース カバーの蝶ボルトを外し、ヒューズ ボックスのヒューズを外します。

2．新しいヒューズを取付けます。

指定ヒューズ：10A

前照灯バルブの交換

交換のしかた

1．メンテナンス カバーを外します。
2．スクリュ４本を外し、ロア カバーを外します。
3．６mmボルト４本を外し、ボンネットを外します。
4．ゴム ブーツを外した後、ソケットを押しながら左に回して取外します。
5．新しいバルブの凸部をソケットの溝に合わせて取付けます。
6．交換後、取外した部品を元通り確実に取付けます。

指定バブル：12V—25W

長期間使用しない時の手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外します。

⚠警告

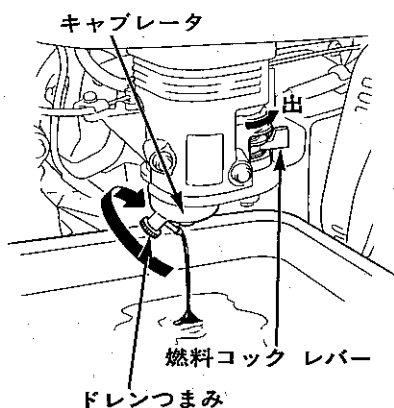
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。

1．本機各部の清掃を行います。
2．エア クリーナ(空気清浄器)を清掃します。
3．燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜きます。

《**抜き方**》

1)燃料コック レバーを〝**出**〟にします。
2)キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を１～２回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。

3)完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4)燃料コック レバーを〝**止**〟にします。

4．始動装置部のホコリ、ゴミを除去します。
5．始動グリップを重くなるまで引きます。
(エンジン バルブが閉じ、燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
6．タイヤ空気圧を少し高くし〈137～147kPa(1.4～1.5kgf/㎠)程度〉、湿気、ホコリの少ないところにスタンドを立てて保管します。

7．バッテリ端子の配線をはずします。(必ず⊖からはずし、接続は⊕側から接続します。

8．保管中は6ヵ月毎に補充電を行ってください。(65頁参照)

取扱いのポイント

本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1．　始動方法は、取扱説明書通りですか？(35頁～42頁参照)
2．　ガソリンはありますか？(28頁参照)
3．　点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？(64頁参照)
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

～～～～～～～～ 少し時間をおいてもう一度確かめましょう ～～～～～～～～

主クラッチ、サイド クラッチが作動しない時は次の点を確めましょう。

1．主クラッチ ケーブル、サイド クラッチ ケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか？（57、60頁参照）
2．駆動ベルトの調整方法が取扱説明書通りですか？（61、62頁参照）

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

項目		諸元
名称		F860
型式		ホンダFZAR
区分		KN
機体寸法	全長	1,960mm
	全幅	770mm
	全高	1,155mm
	輪距	408～712mm
全装備重量		165kg
エンジン	名称	GX240
	形式	空冷4サイクル1気筒25°傾斜型ガソリン
	総排気量	242cm³
	定格出力/回転速度	4.0kW(5.5PS)/3,400rpm
	使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量	3.9ℓ
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火
	始動方式	リコイル スタータ／セルフ スタータ併用
タイヤ		4.00—12
主クラッチ方式		ベルト　テンション
制動方式		内部拡張式(駐車ブレーキ)
変速段数	前進	6段(副変速機使用)
	後進	2段(　〃　)
PTO回転速度		879rpm
サイドクラッチ		ドック式
バッテリ型式名		YTX 9 -BS
安全鑑定適合番号		1402005
型式認定番号		農1780

諸元は予告なく変更することがあります。

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年といたします。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。